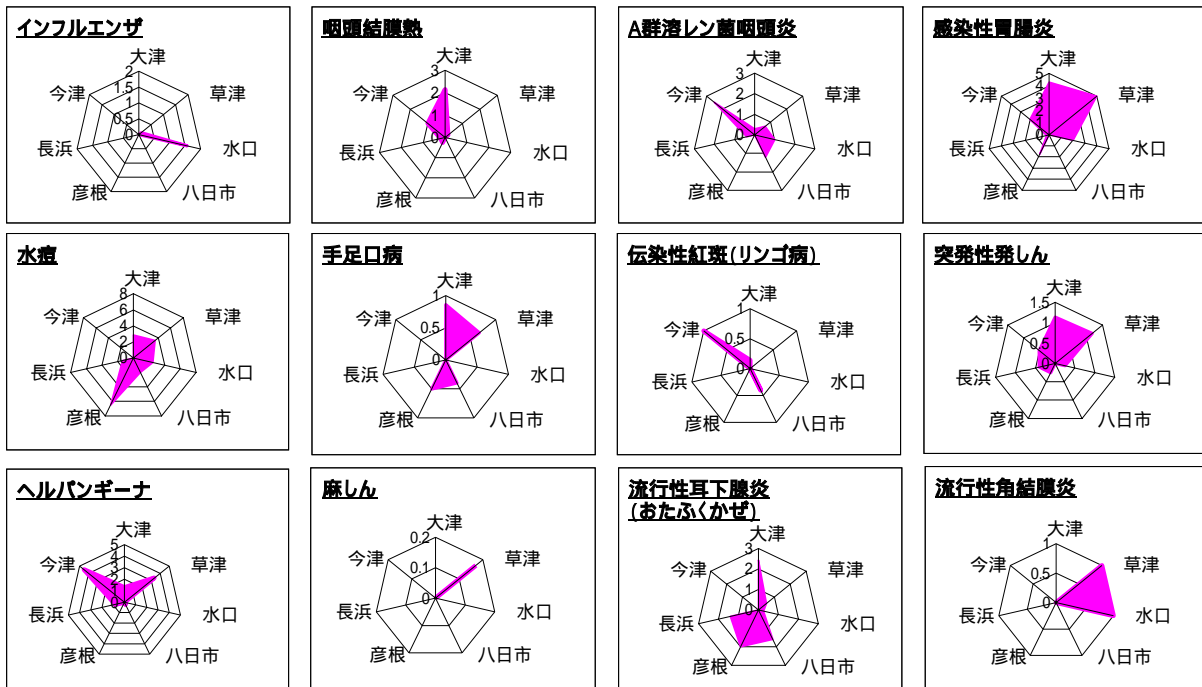


(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第24週、6/13～6/19)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	0.24	0	0.10	1.57	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.61	2.14	0.17	0	0	0.25	0.20	1.00	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.70	0.29	0.67	1.00	1.20	0	0.40	2.50	
感染性胃腸炎	2.42	4.29	5.00	2.00	0	1.75	0.20	2.00	
水痘	2.85	2.86	3.50	2.50	2.00	6.50	1.40	0	
手足口病	0.42	0.86	0.67	0	0.40	0.50	0	0	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.15	0.14	0	0	0.40	0	0	1.00	
突発性発しん	0.61	1.14	1.17	0.25	0	0.25	0.40	0.50	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	1.30	1.29	3.33	0	0.20	0	0.80	4.50	
麻しん(成人麻しんを除く)	0.03	0	0.17	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.33	2.43	0.50	0.25	1.60	2.00	1.40	0	
急性出血性結膜炎	0.14	0	0	0	0	1.00	0	0	
流行性角結膜炎	0.29	0	1.00	1.00	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数) 戻る



今週の発生状況：

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。A群溶レン菌咽頭炎については先週に引き続き今津で多くなっており、草津、水口、八日市および長浜においても増加を示しています。手足口病については大津および草津でやや多くなっています。また、麻しんは草津から、急性出血性結膜炎は彦根から報告されています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

* 感染症法：感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3) 今週のトピックス

ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の発生は増加傾向持続

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(6月6日～6月12日)の報告数よりやや減少しています。今週、増加を示した疾患は咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎等です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。また、インフルエンザについては草津および水口保健所管内以外からの患者発生の報告はありません。

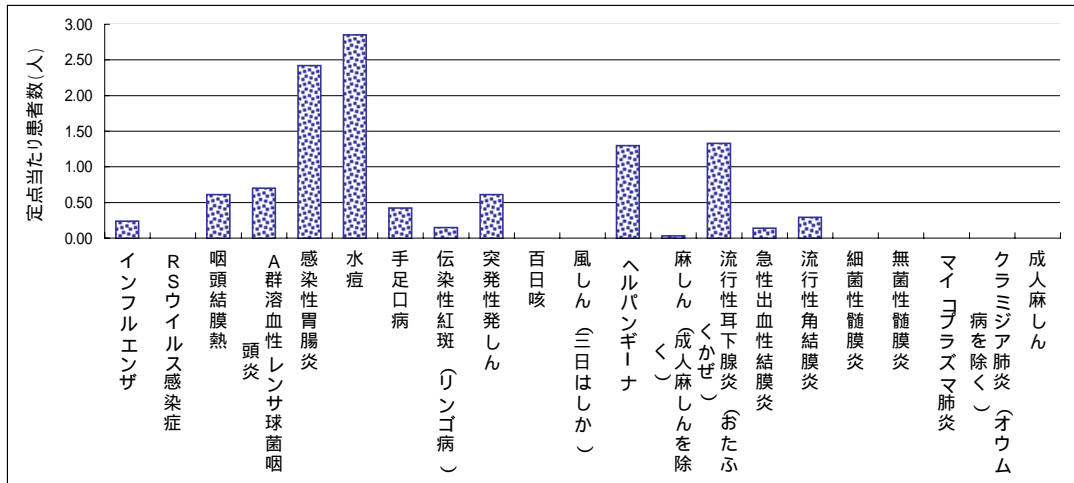
咽頭結膜熱については、先週の定点当たり患者数0.48よりやや増加し0.61となっています。患者発生の報告は水口および八日市保健所管内以外からあり、特に、大津保健所管内の定点当たり患者数は2.14と多くなっています。

水痘については、先週の定点当たり患者数3.45より減少し2.85となっていますが、草津および長浜保健所管内においては先週の定点当たり患者数より多くなっています。また、彦根保健所管内の定点当たり患者数は6.5と先週に引き続き多くなっています。

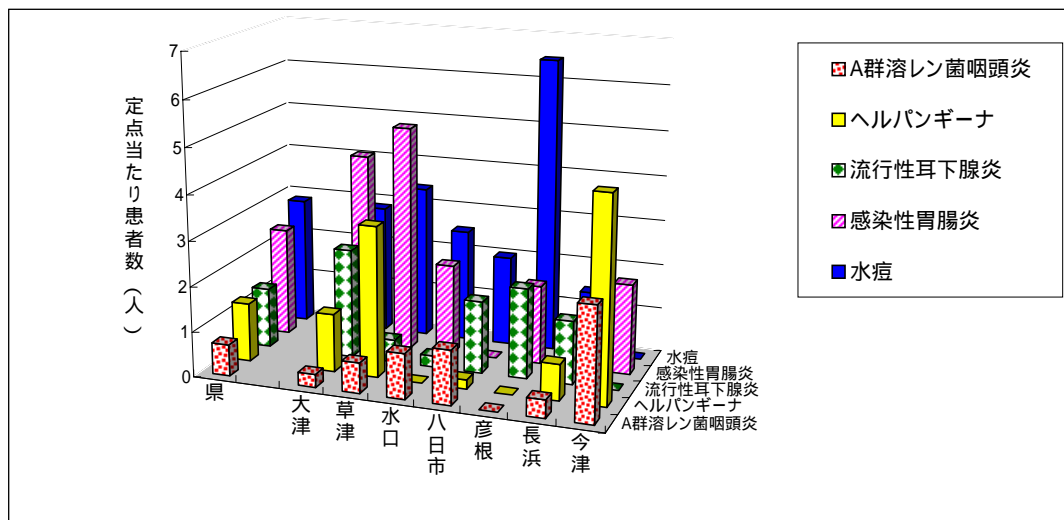
ヘルパンギーナについては、第20週(5/16～5/22)以降増加し今週は大津、草津および今津で多く発生しており定点当たり患者数はそれぞれ、1.29、3.33、4.50となっています。例年、夏季に多く発生していますので今後とも十分な注意が必要です。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)については、第17週(4/25～5/1)以降増加傾向が持続しており、昨年の同時期の定点当たり患者数より多くなっています。特に、今週は大津保健所管内において増加しています。

第24週における定点把握の対象となる5類感染症の発生状況

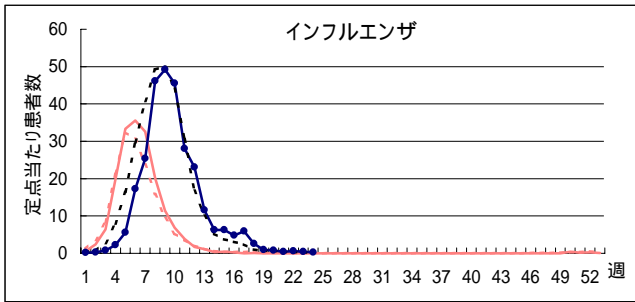


上位5疾患の保健所管内別発生状況(平成17年第24週、H17.6.13～H17.6.19)

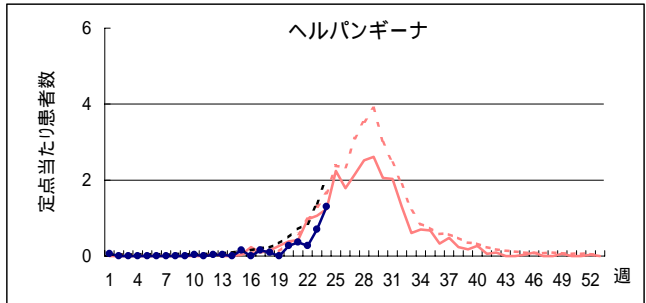
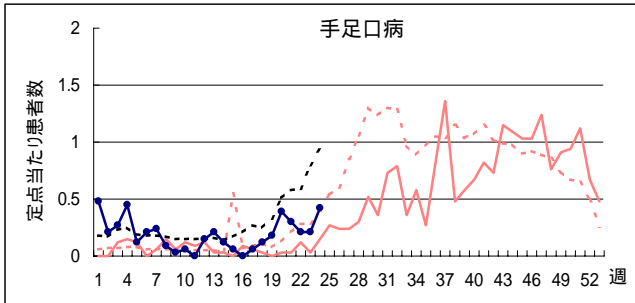
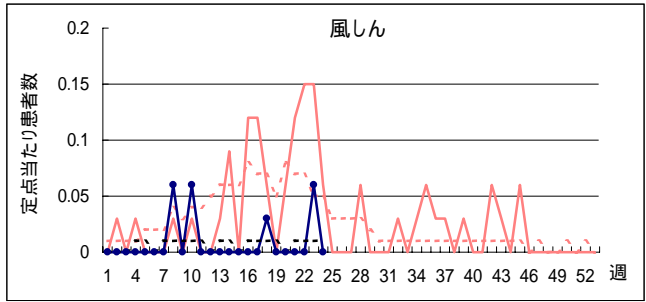
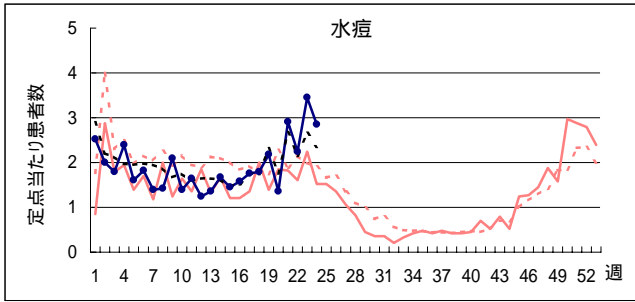
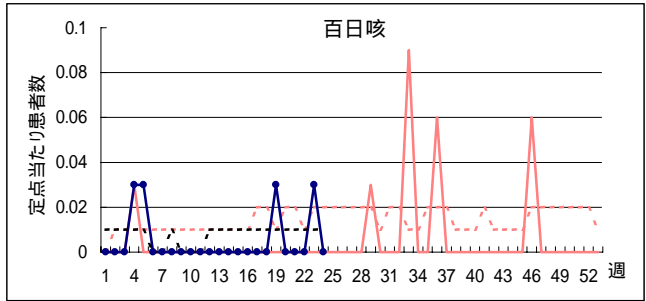
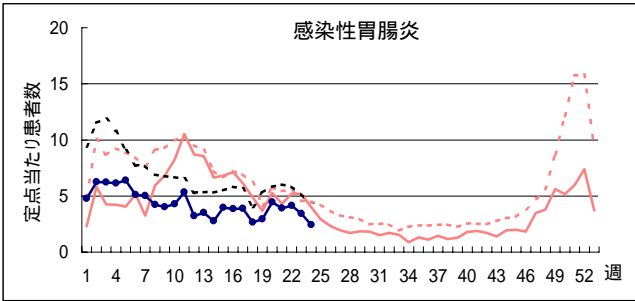
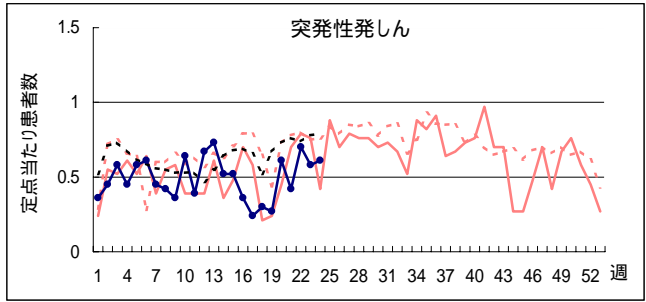
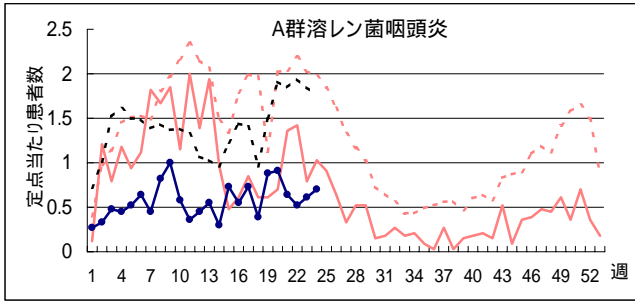
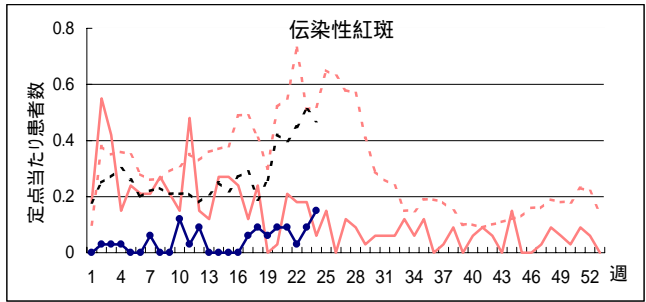
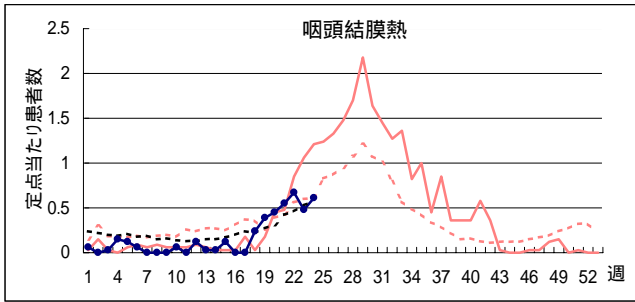


全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ** (<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第24週、H17.1.3～H17.6.19)



H16 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted blue line with dots)



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第24週、H17.1.3～H17.6.19)

H16 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H17 〔 滋賀 ●——● 全国 〕

